

人間の祭司

2024年6月2日

ヘブル書 5章1～4節
出エジプト記 28章
レビ記 4章、9章

- 序：前回、4・14～16 偉大な大祭司イエス・キリスト
神と人との唯一の仲介者（神であり人である、二性一人格）
人間に同情できる（罪を別として同じ経験をなされた）
折りにかかった助けを受けるために、恵みの御座に近づこう。
- 5・5～10以後は、（特に7～10章は、イエス・キリストにおいて、完全、真実
究極的、卓越した大祭司として成就したことを宣べる）

I. 大祭司の起源

- (1)イスラエルの祭司制度は、民の神との契約＝イスラエルが祭司の王国、聖なる
国民として、聖さを維持・確立するため
- (2)祭司階級（レビ人、祭司、大祭司）はレビ族になった
大祭司はその首長
神 → モーセに命じた
アロン（モーセの兄）を大祭司とせよ（以降、アロンの子孫が継ぐ）
アロンの子エルアザルとその子孫へ
しかし、エリはアロンの子イタマルの子
再び大祭司職がエルアザルの子孫に戻り、ツァドク が継承
- (3)神に選ばれ、神に召され、任命された
自分や他の人の決意や要望に基づいたのではない
- (4)神の民の中から選ばれ、召命を受けた
人々を代表して、神にかかわる事柄をなす
人々のために
- (5)任職にあたって、油注ぎを受ける（王、預言者、大祭司）

III. 大祭司の務め

- (1)ささげ物といけにえを献げる（民と自分自身の罪のための宥めの備え物）
特に、年に一度の贖いの日には、至聖所に入り、民の代表としていけにえの
山羊の血を贖いのふたにかけ、全イスラエルの罪の贖いをした レビ 16:11～34
- (2)ささげるもの、時、場所は 神の定めたものでなければならない（別表）
- (3)自分の弱さ、罪を自覚している、その上で民の弱さ、罪、無知で迷っている人々
に同情し、優しく接する（同病相憐れみ、使命を完うする by神の付与）
- (4)召しも賜物も主からいただいた、栄誉も同じ ∴謙遜、栄光は全て神に帰す

Ⅳ. 結び

聖餐式：罪のいけにえの小羊

それを神への宥めの供え物としてささげる大祭司の二役をお一人で担ってくださったイエス・キリストの贖いの御業を覚え、その効果が私たちの救いに有効・完全に現れていることに感謝、救いの確信と聖化にいっそう努めよう（信仰と希望を新たに）して）

ささげ物をする時 \ ささげるべき動物	雄牛	雄羊	子羊	やぎ
毎日（朝、夕）			2	
安息日にさらに追加してささげる			2	
新月の祭り	2	1	7	1
〈例 祭〉				
種を入れないパンの祭り（毎日ささげる）	2	1	7	1
（7日間の合計）	14	7	49	7
収穫祭	2	1	7	1
第7月の第1日	1	1	7	1
贖罪の日	1	1	7	1
仮庵の祭り 第1日	13	2	14	1
第2日	12	2	14	1
第3日	11	2	14	1
第4日	10	2	14	1
第5日	9	2	14	1
第6日	8	2	14	1
第7日	7	2	14	1
第8日	1	1	7	1
（8日間の合計）	71	15	105	8

動物の数は、毎日、毎週また祭ごとに公にささげられるものである。

安息日にささげる2頭の子羊は、毎日の2頭に加えてささげるべきものである。

「7日間の合計」とは、種を入れないパンの祭りの期間中の7日間のことを指す（1日2頭雄羊をささげると、7日で14頭となる）。

同様に、「8日間の合計」とは、仮庵の祭りの8日間のことを指す（1日1頭のやぎは、8日間で8頭となる）。

図11. いけにえの表。